



嘉納治五郎

生年月日 1860年12月9日

死没年月日 1938年5月4日

出身地 兵庫県神戸市

※ 教育者「柔道の父」

「日本の体育の父」

「日本オリンピックの父」

上：小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）

中：夏目漱石 下：魯迅



## 日本オリンピックの父

### 柔道の創始者・教育者 嘉納治五郎

柔道家として有名ですが、柔道の国際的な普及に努めたわけではありません。アジア初のIOC委員として、日本をはじめとするアジアのオリンピック・ムーブメントに貢献しました。

嘉納治五郎は、日本に昔からあった柔術の長所を生かして、自分で確立した崩しの理論などを加え、独自に講道館柔道をつくりました。

嘉納は、一八九一（明治24）年、31歳の若さで旧制第五高等中学校（現・熊本大学）の校長となりました。この年、英語の教授として赴任したのが『怪談』で知られる小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）です。嘉納は、一八九三（明治26）年からは、23年間にわたって、東京高等師範学校（現・筑波

ま  
な  
び  
や

嘉納治五郎は、日本に昔からあった柔術の長所を生かして、自分で確立した崩しの理論などを加え、独自に講道館柔道をつくりました。

大学）の校長を務めました。同年、大学を卒業したばかりの夏目漱石は、嘉納の熱意に押されて教授を引き受けています。

嘉納は、「柔道や体育で得た道徳的な価値を社会生活でも実現してほしい。」という思いをもち、生徒に長距離走や水泳を奨励するなど、体育・スポーツの振興に尽力しました。また、学校教育の充実や指導者の育成に携わったことでも知られています。

さらに、一八九六（明治29）年には、中国からの留学生のための教育機関として、牛込区牛込西五軒町（現・新宿区西五軒町）に弘文学院を開きました。『故郷』や『阿Q正伝』で知られる魯迅は、ここで日本語を学び、卒業後は仙台医学専門学校（現・東北大学医学部）に進学しています。【仙台での魯迅と藤野先生（あわらし出身）との絆については、まなびや第23号で詳細紹介】

嘉納は、晩年までオリンピックの東京開催のために強い信念と決意で尽力しました。

※オリンピック・パラリンピック学習読本（大会組織委員会発行）参照



#### 戦火に消えたオリンピック選手

馬術金メダル「西竹一」、競泳銀メダル「河石達吾」

ロサンゼルス大会の金メダリスト「西竹一」、銀メダリスト「河石達吾」は、一九四五年（昭和20）年3月、激戦地となった硫黄島で戦死しています。戦没オリンピック選手は、分かっているだけで38名を数えます。※河石氏戦場からの手紙（複製）展示



15cmをクリアしたときの大江季雄選手



一九三六（昭和11）年の第11回ベルリンオリンピック陸上競技棒高跳びで、西田修平と大江季雄は、4 m 25 cmという同記録でした。二人の疲労が激しく2位決定戦は行わず、

※友情のメダル・複製展示

#### 友情のメダル

陸上競技棒高跳び「西田修平・大江季雄」

特別展「オリンピック・パラリンピックと教科書」開催中  
教科書に取り上げられた選手や、大会でのエピソード等を紹介、3月28日